



中村俊定文庫
文庫 18
1



舟云々乃多取れんし

○飛つる二乃若中あそび秋海崎の天徳寺
▲岩 百餘小二歳も引合く二乃因し

又石一何とて打寄へるべし。美砂面
と居し面壁しも六旬し 洲も因かし

▲岩 殿し少れ二北二居所二打越

度二面壁し若二乃因し 又云云少れ
也二若乃因小住と云又若乃あつり

乃居不と云云若居戸二二二居所二
二面二小住と居。若下乃居座も居所二面

○音多若の居小住のく一人あそびのあや
○櫻りいまた居の分中丸洗若若若と

○奥の池やあそび若若若二二魔凡いん
▲若居の座 居所二此

▲若垣 居所二此若二乃因し

垣乃や若乃と云つり云々
▲若石 美砂面と居へし

▲若石 洲面壁し 洲二美砂の村と云
▲若居 本乃居垣のわづらし

▲若居 山隈れ本がくれの、面壁

▲若居 少れ小住と云云し若居乃
若居乃あそび二遊二山隈し。若二乃因し

▲若居 若居も若居乃因しけ印居これ印
カッキカッキカッキカッキカッキカッキ

▲若居 若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃
若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃

▲若居 若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃
若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃

▲若居 若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃
若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃

▲若居 若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃
若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃

▲若居 若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃
若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃

▲若居 若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃
若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃若居乃

乃解とまらりまふまふゆるとぞ

し。唐書山ゆのし叫いたまらり

▲四の事 女乃候所乃時此者し

▲若恒剛 石乃すかりりるあし

▲若ふれら ありあはれてはる

▲若切さや ありあはれてはる

▲若の川若布 ありあはれてはる

▲若のこ ありあはれてはる

▲若のやふ ありあはれてはる

▲若本 ありあはれてはる

▲若二の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

▲若の ありあはれてはる

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

○ 糸竹の竹の葉は、
糸竹の竹の葉は、

お新入のまふりていへり

○お新入のまふりていへり

○お新入のまふりていへり

まふりていへり
又三年とあふ
まふりていへり

一のまふりていへり

二のまふりていへり

市
一のまふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

市
まふりていへり

▲川への庭 楊子とまの庭乃楊とま
の赤くまきまきし

▲山崎の庭 雅し 楊子とま

▲八幡の庭 乃楊乃のし

▲作の乃多敷 大黒を許乃の敷し

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 楊子とまのし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

▲山崎 乃乃楊乃のし

○周煥の次から末の唐中宗の御代に於ては、
○唐中宗の御代に於ては、
○唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

又の御代に於ては 六帖

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

▲^{イナカ} 唐中宗の御代に於ては、

中々修りし探素書と云ふ書は色紙の
小紙に抄えん格紙に抄てうゆくは其の
遠一し 是しは是抄目乃即し

▲遠乃指系みし
遠乃製り 尺数し 是と也と 是と也と
ゆ 遠乃製り 尺数し 是と也と 是と也と

▲遠一の即ふれまへし
遠乃指 花乃中乃常り 花乃指
遠乃指 是し 花乃中乃常り 二句し

▲遠一乃即これなり
計目夜 遠乃指と云計中云計中
これいし 遠これいしなり

▲遠乃指と計目夜と云計中云計中
は其の格と計目夜と云計中云計中
は其の格と計目夜と云計中云計中

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

▲是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし
是れをいし 是れをいし

結ぶるよし。時多結ぶる勿論よし

▲花二 花描二句結よし。只描は

短りよし。是中二句は花と云く

もやしも中屋 魚描と云結よし

▲花二 似花乃花面と結べし

▲花二 風塵二句付へし。月小

病雲等同おし。是中二句は

句二花付と又揚と花二風と云

結よしと云

▲花二 付る風塵乃たら風結と云結

小水及新式乃相よし。つとつ花の表

小風と付と。又花乃花乃小風と付る

の表。付やう結と又句と結と云

も付べし。月小病雲。再小彼付る

句と云。是中

▲花野二 秋風等と付と云結よし

▲花乃花二 風塵二句付へし。花乃

二句為時中乃花乃二句為下

よし ▲花乃花と云く又九ま乃花

と云へし

▲花乃高 中居所よし。花と云く

つとつ居所亦二句よし。月の高同おし

▲花乃金 月乃友人備よし。花と云く

一。月と友人備ふ也と云結よし

▲花乃雪 花乃物と云くは花に結よし

花乃雪と云く。雪に花と云へし。雪の

花乃雪に似る。似せ物れ雪能り

雪れ花と云へし。花の雪と云へし

▲花乃雪 ありて又云乃雪あり

▲花乃雪 と云へし。雪は花ありて

付と。又三句めは雪と付るよし。

雪よの結よし。花乃雪と云へし。

雪れ亦ふ九句。雪乃句ありて

三句めは雪と云へし

▲花乃雪 花乃雪と云へし

▲花乃雪 花乃雪と云へし

▲花乃雪 花乃雪と云へし

植ふるも不致と紅色のりけり

▲花わりト三拍 白縁小縁と云れたる

後が花小形し但しや一心を付く

▲花小形し 又中ニ云れたる花の三拍

▲後小書花 云れたる花の二拍し

▲花と縁のさる句ニ 母山と云る句の

結小形と但し一筋ふくむと云る

▲花の色ト 云拍ニ山乃又木乃云

ゆり植花の色を繋りくも折し

▲花と縁の他云 とも白縁小縁結

▲花乃花由ニ 秋乃季の柳と云付柳

▲回 云とるゆかりも云番十一拍

しりもとく十拍のふりけり

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

▲回 置るく折替くも置小形

唯まはるももれか一掃乃まはる
但し此まはるしてのあはれはるももれか
云のあはれ乃まはるももれか
のあはれはるももれか
と云のあはれ乃まはるももれか
ももれか

えんのか代わりのあはれはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

▲掃乃まはるももれか

鹿 鹿 鹿

▲鹿の色 鹿の只て枝のまじせは

らし一白乃のふらふらまじりて

鹿の色をとりてたしせむらに田代鹿

ふ鹿鹿の色に女中あはれぬ切し

▲鹿乃西 ちかく池乃西ゆと又あま

西まの只てし 鹿乃西とまじりて

▲鹿乃西 鹿乃西とまじりて

二句居亦三句又二句居亦三句上流を

時小流へ一在乃流りありしに云あ

色三句居亦三句 仍もあ色三句に

知し但一鹿三乃外あま

源をく 鹿乃西

▲鹿乃西 ありて難し 果も難し

鹿乃流果とありまはれま流るべ

鹿乃西乃るし 只鹿とすもま

▲鹿乃西 ありて難し 果も難し

鹿乃流果とありまはれま流るべ

鹿乃西乃るし 只鹿とすもま

▲鹿乃西 ありて難し 果も難し

鹿乃流果とありまはれま流るべ

鹿乃西乃るし 只鹿とすもま

▲鹿乃西 ありて難し 果も難し

鹿乃流果とありまはれま流るべ

鹿乃西乃るし 只鹿とすもま

▲鹿乃西 ありて難し 果も難し

鹿乃流果とありまはれま流るべ

鹿乃西乃るし 只鹿とすもま

古今通記
二

人生幾何九テ禁中神祇御成

春夜五夜東山御成天行月建の勢

▲おるり、まはく一切の御成は

▲おあり、まはく御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲二の町、おのま、只つしおびあれた御成を

▲二万の里、おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

古今通記
二

人生幾何九テ禁中神祇御成

春夜五夜東山御成天行月建の勢

▲おるり、まはく一切の御成は

▲おあり、まはく御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲二の町、おのま、只つしおびあれた御成を

▲二万の里、おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

▲おのま、只つしおびあれた御成を

二句し又のいおほくあつし成し
徳一し 徳こそわたりおほくあつし
これいふべし

○ 悦 二句し 田舎者といふ人あつし
郷公一し 郷一語一いふし

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

○ 一語一語 後時より後乃まゝに
一語一語 後時より後乃まゝに

▲ゆらりニ流るるや多味ありて元
埋火のり同か

▲程 ホト さまし

▲種綿 ホロカ 芦ニ面し 其の種綿ハ粒

▲火粒 ホカク 早くも入ニ折し 大串同か

▲外 ホカ 折し 早くも入ニ折し 大串同か

▲牡丹 ホタ 只し 其の牡丹ハ粒

▲背物糸の白

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

▲ゆらりニ流るるや多味ありて元

埋火のり同か

▲程 ホト さまし

▲種綿 ホロカ 芦ニ面し 其の種綿ハ粒

▲火粒 ホカク 早くも入ニ折し 大串同か

▲外 ホカ 折し 早くも入ニ折し 大串同か

▲牡丹 ホタ 只し 其の牡丹ハ粒

▲背物糸の白

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

▲雲 ホカ 雲と牡丹花との白くし

くくあめのがさむらねろくふ
様とつりこゆるなり

▲^{ホツク} 桑 仕る人へ乃折ふ花月も
餅歌とてぐらに又花とあつりゆふ

▲^{ホツク} 徳めと 痛われぬひにさつり袖し
ま百秋小孫餅歌とてへささく

▲^{ホツク} 酒 ありし 少経の袖し 藤井の
わしを茶は目梨からふつりさし

▲^{ホツク} 蝶 山伏の藤ふ付さるものささるとまき林の
ほれり ころし かせと針も二乃目し

わさしほのくめと二乃目しほれ
ろしとささくかせのささるとまき

えきとくころしかせのささるとまき
かせけりかせわたるささるとまき

ゆくのころ外へささるとまき
と針も二乃目ささるとまき

▲^{ホツク} かせの かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} かせの かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 秋ふかりし 穂あつり
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲^{ホツク} 大串 照村のささるとまき
かせわたるささるとまき

▲色々 去々 昔々 今々 此へかも家

▲色々 例 付 向 歩 紙 筆 へん へん へん

▲色々 一 句 亦 也 ぬ る し ぬ る し ぬ る し

▲色々 九 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

○ 宅

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲色々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

▲所と云々 申しねし 伏不立和あし二

▲句し。余亦いふ後 又かニ 所ニ麻の伏

▲所せれ 所の字 固乃字ホニ ねし

▲帝友 友乃字又句老世面し

▲常世乃固 され其國 遠兼と云々

▲法 又長 固と云 終と常あふ云

▲ととわ 又 庭乃 濱をし 固の字してありニ云

▲戸あら 戸さし 九ニ云 戸の字ニ 候

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

▲ととわ 固の字してありニ云

とけり秋ふかりしとて花の心ぞも
如大冷とてい秋ふかりしとて花の心ぞも

△文種、名茶付へくは只乃茶よ
お若しとておぬへし。と茶、秋の季

乃名茶の好し。夫中ニ茶種ニ茶
みゆし世に紅い茶よおとあかしく三句

。美茶を好む種ふとつらふ引出ん秋の味も
。秋の味もつらふ引出ん秋の味も

帳 唐衣ニ帳ニ帳ハ帳ニ帳ニ帳
帳 帳 帳 帳 帳 帳 帳 帳 帳 帳

。我宿在茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
。我宿在茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも
△茶の好むとておぬへしとて花の心ぞも

早乃ぬ二句し 不乃ぬと初見ぬハ
付てもふりうすす於合ふは佳し

▲ぬよ 治せもし傷れぬと云は佳し
寐 一し 入傷二つ又多寐寐乃る

一ひ二つてぬり 肝二句 寝つても二句
袖とくくし ぬるし ぬるし

▲ぬり玉 憂ひまじし 寐の善くまじし
ぬるまじし 入心感し 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句
。ぬり玉 ぬるまじし 肝の寝るは二句

文と通るの事と通る面なるべし 旅状
いづれかへし。其か二人の通る面なるべし
即ちお智くともうりまはつた。わいへ云
留てお智べし。旅かやしし。まき

とくく、 といれくおどまへく二つ、
旅とまきし。送乃ま付白もお智 旅のこ
五のま、 お智わくままおむの信お
乃通のらし折し。お智の通くまて
又おろまへくま、 お智の通くまて
とこれお、 といれおし。まきおし

旅、 又二句し。お智の通くまへし
とくま、 旅お、 生まへまの字二句
退、 お智わく二程まへし。お智の通くま
とこれお、 といれおし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

一 沖中川 川乃お尾し大河おれ海入

てもおあまらのおせくともまきおし
お智の通くまへし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

お智、 といれおし。まきおし
お智、 といれおし。まきおし

▲^{ヲモカチ}情 只一又月夜、一ツレとて、ツレも只乃月しツレとて、ツレ新西乃ツレとて、ツレ二句し又ツレ也ツレ也ツレ

▲^{ハシ}とれ ハシの勢くハシこし ハシおのれとくハシ人 ハシ侍ハシし ハシふはハシ乃女ハシ房ハシし ハシおのれとく ハシ山乃ハシ勢ハシのり ハシせこれおハシのせし ハシおのれとく ハシおのれとく ハシおのれとく

○和

▲^{ハシ}つりおれ ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ勢ハシ也 ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也

▲^{ハシ}おのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也 ハシおのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也 ハシおのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也

▲^{ハシ}おのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也 ハシおのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也 ハシおのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也

▲^{ハシ}おのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也 ハシおのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也 ハシおのれ ハシ又か、ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ主理 ハシ吾乃ハシ文ハシ也ハシとハシ句ハシし ハシ日本ハシ也

▲わたり 二句又二句と云後あり 結句の二句は

べしと云句は流し

▲わたりあり 二句と云句は二句と云句は

もあはれ。又か二句と云句は二句と云句は

二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲わたり 二句又二句と云後あり 結句の二句は

べしと云句は流し

▲わたりあり 二句と云句は二句と云句は

もあはれ。又か二句と云句は二句と云句は

二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

▲二句と云句は二句と云句は

くつり洲しことと白乃乃内り後お色
 と林利をくし。天中ニ流るうくそそ
 持り寄し思申し。秋の香と秋の跡の
 管し秋の跡の流し。用り寄る
 去り居ると。居合水が寄る。冬乃居
 るべく。秋乃居れ介介一思はし。思
 或用。秋乃居る。秋乃内なる。思はし。あ
 秋乃居れ介介。思ふくも。思ふくも。思
 介。思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

去も回かし

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲居乃 思ふくも。思ふくも。思ふくも。

▲雑火

雜し

▲桑山

麻呂

▲むらさ

熱のま

▲香

花挿

▲

くも

▲

乃

▲

とい

▲

て

▲

つ

▲

を

▲

が

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

▲

を

神し 卑劣儀の字と
又斤カト 斤カト 後ル新 神カト 斤カト

○衣カト 斤カト 後ル新 神カト 斤カト
○又カト 斤カト 後ル新 神カト 斤カト

難し方ニカト

▲ 儼ノマツシ 急 斤カト 新カト ニカト

▲ 斤カト 上カト 宿カト 夜神カト

くくくくく 斤カト 夜神カト

くくくくく 斤カト 夜神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

▲ 斤カト 神カト 神カト 神カト

けふおろとれんし

▲ 斤カト 七日八日 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

▲ 斤カト ありぬ 斤カト

雅乃乃於し雅乃乃がこゝろと云物てみ
むまし。こゝろてまぐさのひこころ雅乃乃

▲かれやあり 一度こゝろ

▲かきりり 又母ろろし

▲又乃乃いもうゝのあつととあねたて打ふ

▲うろこさ ことり山に於て林田乃乃知し富

▲士淡石田かま城西し 結城へ進軍す

▲あつとく 植乃乃里へし 名をし雅乃乃

▲油漬をろろさひし 植乃乃し

▲植乃乃後 秋さかへ

▲植乃乃花 秋し月乃乃名りし 月乃乃植の

▲花田か 又か 植一植男と一はか

▲植川ろろとと

▲蔓つし 蔓ろろ 蔓ろろ 蔓ろろ

▲乃於しあつとくしけ打但くもとと

▲又云蔓乃乃於てま

▲所こ 又蔓乃乃一各しまむろろ

▲とらとく。こゝろさへへてたろろいなし

▲奥列中へいりしとつりし あり

▲ふりあふ法に派の花のしりまはたかれり

▲あつとく あつとくし あり

▲所と云月 二し 梅云 所花田あつとく

▲所あふのしあつとくし物物てこし

▲又かニ 所くもこの四を あり

▲夕の昔やの所は所社ののく秋の立物あり

▲清 只一 八相一 只名一 只名一 只名一 一

▲世 但只名一 只名一 只名一 只名一

▲おろろし 只名一 只名一 只名一 只名一

▲危境も只名一 只名一 只名一 只名一

▲清 只名一 只名一 只名一 只名一

▲乃月ふとくし 又蔓乃乃清乃乃

▲時宜し 只名一 只名一 只名一 只名一

▲清 只名一 只名一 只名一 只名一

▲又 只名一 只名一 只名一 只名一

▲清 只名一 只名一 只名一 只名一

▲又 只名一 只名一 只名一 只名一

▲清 只名一 只名一 只名一 只名一

▲又 只名一 只名一 只名一 只名一

▲清 只名一 只名一 只名一 只名一

▲又 只名一 只名一 只名一 只名一

か、ド石リハ... 夫本

▲冠 衣類ニ此ト

▲被岸 尺蓋シ

▲被 尺ニ白シ

▲か 尺ニ白シ

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲か 尺ニ白シ

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲麻子 尺麻子并少ク...

▲照射 大串ニ...

▲^{カサレ}魚のま 大由まを かつぐふも大由を

▲^{カガロウ}うのゆみ 難し ありとこれのまを

▲^{カガロウ}陽痛し 生れ三味 出れ中ふまの

▲^{カガロウ}情けし ありとこれのまを 生れ三味

▲^{カガロウ}まがし。さんごのまを ねむくけ

▲^{カガロウ}ろか奇ふよりてまを 習ふて 秋し

▲^{カガロウ}情け 三味とこれのまを ねむくけ

▲^{カガロウ}系三 三味とこれのまを ねむくけ

▲^{カガロウ}月月人ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}山本 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}物乃 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}陰三 ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}下ふ二句 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}山陰 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}又夫 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}月乃 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}花乃 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}陰乃 ありこれ ねむくけの 系三

▲^{カガロウ}下乃 ありこれ ねむくけの 系三

▲ 久々くし 摩吉ぬあふの昔のまこむ

ゆくれ乃実あられし こらうらうらひかたうらうら

▲ 久たれて ながしり ▲ かさ勢り 引こりし

▲ 解り トキヨ ぬりりてし

▲ 愈乃とれ山 蓬菜ととり山歌ゆと

▲ 愈 カ 一 ハナ かく花籠又よ

▲ 籠ふさす花 植ぬし 毒のまよふくし

▲ 作 一 作代 一 名は作 一 びか之海小

▲ 作 ハナ 一 作代 一 名は作 一 びか之海小

▲ 作 ハナ 一 作代 一 名は作 一 びか之海小

▲ 作 ハナ 一 作代 一 名は作 一 びか之海小

▲ 作 ハナ 一 作代 一 名は作 一 びか之海小

▲ 作 ハナ 一 作代 一 名は作 一 びか之海小

乃林部田のなう乃林号と出たさあ

もろと名は林とすし名は林下他と

すく名はと通くあはし名は乃林の

味法度下と林小雲へもちとあり

作替の林礼乃林実乃林ま見

林佐乃乃林おは林よふと

名不乃林と名は皆名不名へ

▲ 林さひく 林二面と名は林小わは

上久と名は只古代ふ久しとし世

白三徳へし。又か一林根と名は名

ハ名林乃かふふくは只久しと名

ふわハ林小西と名へし林二面ハ

▲ 林さひく 林二面と名は林小わは

▲ 林さひく 林二面と名は林小わは

▲ 林さひく 林二面と名は林小わは

▲ 林樂乃名の養うふはまはた 一
をくば外 林のふり 庭大 中

▲ 林乃松 林のまよとまよ 林のまよの松
林のまよの松

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
のみかたやかこころぬし 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
その名をよみしる名はこそまよの松

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し
▲ 林乃松 友し 只奈くしりも友し

乃世かとも今にまほし法と結る
尺取し何道も折れし。毎此世の何れ
乃裏みありたるべし引合てみし

▲世乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
二の因し。

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

月結く二を長枕かど折れあり
二付く二を長枕かど折れあり
二付く二を長枕かど折れあり

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句
▲世乃字ニ 中乃字ニ句内の字も二句

とりのうらぬ世にぬれぬらとま

よかく 衆乃乃るかゆまし或ま

衆破くとも飯乃字三三句後とも

よかを 又流る 又流る 又流る

。後とて流るのあまをうたへて流るあまをうたへ

うらん 一とまをうたへて二とまをうたへ

あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

。あまをうたへてうたへてうたへてうたへ

△横ヨコのま 杉ノ若ク二ニ程ニ下ノ

△横ヨコ云クモ 香カかし 東ト引キ才シとス三ニ程ニ

△横ヨコ云クモ 月ツキ乃ノ赤ニ赤ニくク後ノのノ下ノ

△横ヨコ云クモ 二ニ句ク下ノ 天ノ中ニ横ヨコ云クモ 二ニ句ク付ケ有リしト也シ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

△吉ヨシ聖ノ乃ノ古コ里リ 志シ変カ乃ノ古コのノあノのノ里リ 居クモ

○身や流すまの海しとるれあう
▲いん ともまあしにありモれ合三三
▲ざんとく二句絶つたすおれたる
併し世もみぬくひん

▲堪のまつし 又か一度ニ種ゆへ
▲堪と絶ニ丸あま子絶るべうしべへ
あけりふあまふまふさこ深民あもろ

こまふまふまふまふまふまふまふまふ
絶くいのえのあし 堪タタハ 終タタハ
たゆりたまし 堪タタハ 終タタハ

▲魁 一し 又たたくしと折替て一五
▲橋 一 又氏ニ一ふべう花あは

▲魚橋ハ二句し 楊結てもまし
又かニ魚橋ハ二句し 楊結てもまし

▲魚のま 二むりりふべう
▲魚水 氷玉 同折替べう

又かニ折式ニ ありとニ絶とくまの折の

▲魚水とちり 白海新の魚水のあま色ニ北

し又書と魚水とまし 又魚橋ハ二句し

▲魚のま 楊折と橋折乃流ニ 二句し

▲たごやめ たごやめまま 又かニ

弱女 又かニ 又かニ 又かニ

▲風流女 風流士 急るるべう 八曲あられ

又一ふべう 又かニ 又かニ 又かニ

まの習ふや 又かニ 又かニ 又かニ

冬に書くはるるるるるるるるるるるるるる

▲多岐山 天衣ニ似ど 多岐山斗も
山形しきのま面し 極流

▲多岐山 舟乃まわくこと 舟乃ま
漕カサし小まし 舟ニまわくこと 舟乃ま

舟ハ細舟乃知し 舟乃まわくこと 舟乃ま
まてハ舟し 舟乃まわくこと 舟乃ま

。猪俣の山と云くまをせり 舟乃まわくこと 舟乃ま
▲まね極舟乃知し 舟乃まわくこと 舟乃ま

あぐた合と云くまをせり 舟乃まわくこと 舟乃ま
▲筆 了し 竹之白 舟乃まわくこと 舟乃ま

。舟乃まわくこと 舟乃まわくこと 舟乃ま
後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま
二面ハ白まわくこと 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

。後ハ只一 舟乃まわくこと 舟乃ま

屋敷三箇し ちりしちりの 植のて屋

△田圃の垣根 田の居三堆へ 居所三箇
是屋敷の向儀より 苗代垣も田圃と云ふ

△田圃ニ 外面折し 脊面と云

△田圃の居 田乃字七句居し

△田ニ里 落く居敷又句し 田圃の
七句強し

△田づりく 田圃と云ふ 七句強し

△田づり川づり乃居しニ五里一川
づり海づりの何れもあまきおれが一

△田草らる ちりし 丸植ゆし

△田奇 ちりし 植ゆり乃し又河内
もろくち中源しちちり乃れちり

△田子 田圃 人傳し

△田より圃 田ニ六句し 田圃を云 後河
又右河内 武中し 田ニ五句と云り

△田裏 山に二句 田ニ六句し 田圃
田圃

△田井 井 ちりし 田圃と云 田乃のふ
ちりし 田圃と云 田乃のふ

△田中乃井戸 田中乃の井戸と云 田圃
田中乃の井戸と云 田圃

△田乃井 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

△田圃 田圃と云 田圃と云 田圃
田圃と云 田圃と云 田圃

乃終りても其の地は灯火の如く其の
▲燈火の如く其の地は燈火の如く其の
し其指の如く其の地は燈火の如く其の

▲たらし 其の地は燈火の如く其の
▲玉乃を 其の地は燈火の如く其の

其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の
其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の

其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の
其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の

其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の
其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の

其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の
其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の

其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の
其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の

其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の
其乃玉の如く其の地は燈火の如く其の

▲玉 = 命乃を其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉川其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉乃其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉乃其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉乃其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉乃其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉乃其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉乃其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

▲玉 = 玉乃其の地は燈火の如く其の
玉乃の如く

多入りしはまほも同お

▲玉律 乃二白新武冠ニ玉律も玉

▲玉律 已乃由し然ニ玉ニ白句く之流るふあ

▲玉律 玉律 玉律 又高冠帯ふくしとち

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

▲玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

用べし又ゆきしとてとまし

▲玉第 只物とわりて玉第とまし

○玉第のうらぶの玉第をたたくたゆびとて

○玉第の天年貞々二年三月六日の

何屋の玉第をたたくたゆびとて

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

○玉第のゆきまをうへ大徳寺の玉第

〇膏

△そらあ 乃と膏をし作りあまし
又そらうく湯うくあしを

△他とまをせんふあはくまのうりあをのり
△肥 男をせし 男と名前と二句し 肥と介
物又句の程。あまのうりあをのり
△肥乃立木 木二枚のうりあをのり
△そらあ方面 漆喰面し 物いれはては
△そらあ川 漆喰又漆のまじりてはかり
△漆 漆はあまのうりあをのり

△膏 膏はあまのうりあをのり
△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

△外 外はあまのうりあをのり
△乃 乃はあまのうりあをのり

庭雲のふ人等二句ほし 胸は多あり
あひの瀬あひの海わ 弁紙は
吳中二句ほし

○津

△遊雁乃乘 十二月晦日 遊雁乃乘
△葉地 唐和ニ句のちし

△花葉乃葉 折し月多し
△ほいまの 續松し 松の目下

△終小と云相 二句多つたうし 極五
吳中ニ句と云

△終小形乃 云常し
△燕 一し 菓も目一菓をまの

△翅 秋し袖も秋し。吳中ニ句つたうし
△翅 鳥羽田 鳥羽山二句し 極五
吳中ニ句つたうし

△枝 枝と結し 呉中ニ句つたうし
△枝 枝乃志げし 極五

△後市 大和國乃名はく

△壺乃碑 貞列壺と云ふ 壺乃碑
有日本武多日中 壺乃碑と云ふ

△女中 女中といふ 女中といふ

△信貞乃いそ 信貞乃いそ

△夜が葉 夜が葉

△風小 風小

△お産 お産

△六月の云 六月の云

△物 物

△物 物

形乃素也。後へつら。形乃つま
形乃素。後乃素也。出らふ一
とらふ。後乃素也。出らふ一

▲素也。別乃素也。

▲素也。素也。向方也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

形乃素也。後へつら。形乃つま
形乃素。後乃素也。出らふ一
とらふ。後乃素也。出らふ一

▲素也。別乃素也。

▲素也。素也。向方也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

▲素也。素也。向方也。素也。

あけき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

○ 孫

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

あき かけぬのあけき

多は樹あり人乃園も又句短く

▲麻マ 二句し 樹ツ 樹あり花ハ 花あり

▲麻マ 依ヨ 依ありと短し 又中これも二句短く

▲麻マ 二句 目メ 目ありは長き句

▲麻マ 八句の句ありも短く

▲麻マ 十句の句ありせぬあり

▲麻マ 二句 又二句短も二句しとの

▲麻マ 二句し 麻マ 二句の句あり

▲麻マ 又麻マ 二句あり短し

▲麻マ 別ワ 二句あり短し

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲麻マ 麻マ 二句あり

▲^{ハレ}別夜 二句し又始のふきよむ

▲^{ハレ}別夜 直に夜と云別夜はあしむ

▲^{ハレ}鳴子 田に後へは種を二句 鳴子

▲^{ハレ}鳴子 別夜はあしむ

▲^{ハレ}鳴子 竿乃左に鳴子と見しお里の

▲^{ハレ}鳴子 栗島ふくふ藤とあしむしはははら

▲^{ハレ}鳴子 目録しと案や三つとあ文路は竿持は後へはあしむ

▲^{ハレ}鳴子 鳴子と云 藤乃也 鳴子 又句は

▲^{ハレ}鳴子 へし目録は 藤とあしむすあしむ

▲^{ハレ}鳴子 又句は 又句は 又句は 又句は

▲^{ハレ}鳴子 又句は 又句は 又句は 又句は

▲^{ハレ}鳴子 又句は 又句は 又句は 又句は

▲^{ハレ}鳴子 又句は 又句は 又句は 又句は

▲^{ハレ}鳴子 又句は 又句は 又句は 又句は

▲^{ハレ}鳴子 又句は 又句は 又句は 又句は

▲^{ハレ}鳴子 又句は 又句は 又句は 又句は

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲^{ハレ}中夜 常本の中夜 中夜 中夜

▲中糸

糸乃中 ナカノイト 糸乃中 イトノナカ

中糸 ナカイト 又 また 媒 マエ 糸乃中 イトノナカ 又 また 糸乃中 イトノナカ

▲中

中 ナカ 媒 マエ 人 ヒト 糸乃中 イトノナカ

▲中川

中川 ナカガハ 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲中

中 ナカ 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

▲糸

糸 イト 糸乃中 イトノナカ 糸乃中 イトノナカ

二句亦ふも二句とて 日又と歌の事

▲歌木想 歌木の中何れもさうぞ 歌木

▲名紙乃後 名紙乃後たえ 悪作と

▲海日川も江に出く 枕行ふもし 名紙

▲奈古更乃実 奥州小倉名紙

▲お来るといふはあり 名紙

▲おれおれとて此実の宿も何ふつとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲人乃んれつり世中 名紙

▲名紙も果はかきとて此実の宿も何ふつとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲おれおれとておれおれとておれ

▲^{ナキ} 諸乃懐 唯奮然其の 彼傲一云
山底あり

▲^{ナキ} のま ありあもまよらし
一云 夫が 夫然ふつふと一云 西條 一云

▲^{ナキ} 一云 後と回らうと一云 一云 後乃字
ゆるりとして 俗に云ふ一云 一云

▲^{ナキ} 一云 其の字 又句極分 ちりたれた
あやあく 物と 荒れあれた 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
又 夫が 夫あれた 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

▲^{ナキ} 一云 一云 一云 一云 一云 一云
一云 一云 一云 一云 一云 一云

云苑しきし極物し 天中 故乃白
くまろしき只花ゆゑに 船を物
ゆゑ難し 云苑極物 此と云苑乃
流の如云苑しき 是の如く流の如く

▲流乃言 極物しき 是の如く
あるは 是の如く 極物しき 是の如く
入るも 是の如く 極物しき 是の如く
すし 一言 是の如く 極物しき 是の如く

一 横 雷 雨 所 用 ぬ 此 雨 方 可
候 念 之 物 極 物 不 可 混 念 之
物 不 極 之 乎 混 念 之 方 可 之
本 君 乃 故 小 極 物 之 事 也 是 乃 極 物 也

▲流乃 極物しき 是の如く
舟 極 物 之 事 也 是 乃 極 物 也 破 釘
おとれ 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
舟 極 物 之 事 也 是 乃 極 物 也

▲流乃 極物しき 是の如く
流 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
流 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
流 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也

▲洞 七句 是の如く
鳴 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
。 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
小 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
あ 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也

▲流 之 神 乃 月 神 小 乃 月 神 乃 極 物 也
其 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
は 若 神 乃 月 神 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也

▲流 乃 時 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
流 乃 時 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也

▲流 乃 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
北 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
▲流 乃 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
北 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也

▲流 川 北 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
北 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
北 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也
北 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也 是 乃 極 物 也

▲洞々たる 髪やどらんとり

○髪乃花乃らとあるよはてこども者これ

▲髪 髪乃らあうがもしとて髪は

只の非し。美かこ其の家紙を定る

時ししたも夫も男のをれがかり

大つこの其もまみ成とちりたり

▲髪 髪乃らあうがもしとて髪は

と花乃れらるる乃由し桐壺同か

古へ糸壺乃み奇仙と云の夜探集

乃他いんかり

○直衣のいんかりと云のいんかり

▲あひく 髪乃一極のこつこつし

髪乃あし引の二句し併し髪乃

あひく小髪乃あし引のわし

髪乃あし引のわし

直衣乃三終

此春物しつりけし直衣

寛政元年八月十六日書之

余未あ申也報をば

是れはとてわらうとて和歌

家業任直衣治家可恨病

者見也

